

Frontline Report

# 金融業界における生成AI活用を加速！ —FDUAがガイドライン1.1版をリリース

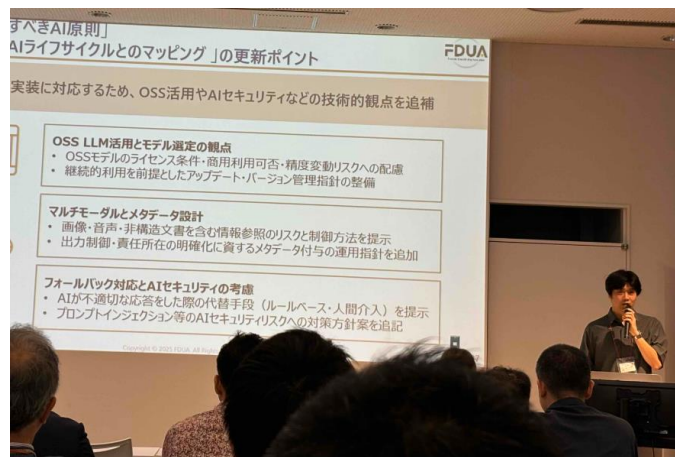
2025年7月14日、一般社団法人金融データ活用推進協会(FDUA)は「金融生成AIガイドライン(第1.1版)」を正式にリリースした。初版(1.0版)の公開からおよそ1年での改訂となる今回の版では、業務現場での生成AI利用が本格化する中、実務に直結する指針が大幅に強化された。

改訂の柱は二つ。まず、「AIエージェント」を中心とした最新技術の活用指針が第2章に追補された。そして、第4章として「AIガバナンス態勢」を新設し、ポリシー策定、リテラシー教育、役割分掌、リスク評価・監視フレームワークなど、組織的コントロールの在り方が体系化された。

生成AI活用事例(第7章)も充実し、事例数は8件から23件へ大幅増。顧客接点、オペレーション、IT基盤、コーポレートという四つの業務領域別にカタログ化され、金融機関が自社課題に照らして参照しやすい構成となった。

リリースイベントでは、代表理事の岡田拓郎氏が「ガイドラインは一律規制ではなく“現場で使える指針”を目指す」と強調。有識者セッションでは、AIエージェントの導入ステップやリスク対策、最新法規制の動向が議論された。また、AIは「“使うもの”から“任せるもの”」へというマインドシフトが重要と示唆された。

CTCからは、金融NEXT企画部の福永 圭佑が、ガイドライ



ン変更ポイントの解説で登壇した。PoCから実運用へ移行する金融機関が増えている現状と、それに伴う実装時の留意点を紹介。ローカルLLMの活用やAIセキュリティ対策など、先進的な取組事例を示し、会場の関心を集めた。

生成AIの利活用が加速するいま、ガイドラインの継続的更新は関係部門にとって欠かせない羅針盤となる。イベントでは「Intelligence on Tap」という言葉が紹介された。蛇口をひねるように知性(AI)を呼び出せる時代だからこそ、その流れに確かな安全弁を備えたい。最新技術の便益を引き出しながらリスクを制御する—“攻め”と“守り”の両立が、これからの金融DXの方向性を左右する。

## SASイベントでミーティング可視化AIをライブ披露

7月24日に開催された「SAS Innovate on Tour」で、CTCのAIエンジニア多賀・小崎がライトニングトークに登壇した。英語主体のグローバル会議をリアルタイムでマインドマップ化し、質疑応答までを生成する開発中のサービス「Kikimimi」をライブデモ付きで披露。“英語あるある”を解消する実演に、会場は笑いと共に共感に包まれた。

## RPA・AIコンソーシアム(NRAC)の技術勉強会にで生成AIサービスを紹介

8月20日に開催される「NRAC 月例技術勉強会」にCTCが登壇予定だ。プロダクトビジネス推進部の大住和土と金融NEXT企画部の松嶋 優が、「UiPath」の最新取組と「C-NOAH」の生成AI機能群を紹介する。RPA製品と自社AIサービスをニーズに応じて組み合わせる、CTCの柔軟な技術力を示す場となりそうだ。

# Product Spotlight

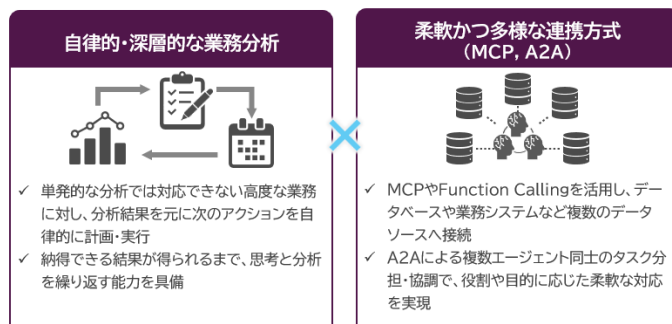
## 次世代AIエージェント「Aitomatic」と切り拓く、金融業務支援の深化と拡張

自律的に情報を収集・分析し、提案まで行う——そんな「現場で動くAI」が、金融業務の常識を変えつつある。CTCでは、先進的なAIエージェントソリューション「Aitomatic」を活用し、融資稟議書作成や債権回収調査といった、時間と労力を要する業務を支援するPoCを推進している。融資稟議書作成では、有価証券報告書やWeb記事、財務諸表など多様なソースから情報を抽出し、定量・定性の両面で高度な分析を実施。これにより、対象企業の財務健全性や潜在リスクを立体的に評価できるようになった。債権回収調査では、地図画像や登記簿、ストリートビューなど横断的なデータを組み合わせ、調査対象者の保有資産や所在地を正確に把握。いずれの業務も、複数のデータソースを多段階で分析するワークフローと組み合わせることで、従来にはなかった“幅”と“深み”のある調査・分析が可能になった。

こうした多様な情報源を安全かつ効率的に結び付ける基盤として活用されているのが、MCPやA2A、必要に応じて段階的に情報を探索・統合するDeepResearchといった技術だ。これらにより、複数のAIエージェントが役割を分担しながら自律的に情報を取捨選択し、最適な分析結果を導き出せる。特に、文書・画像・地図・表など異なる形式のデータを統合的に扱える強みは、金融業務における高度な意思決定やリスク管理を支える武器となる。

金融現場に求められる「スピード」と「精度」の両立。その実現に向け、CTCは確かな一歩を踏み出している。今後も業界のAI活用をリードすべく挑戦・進化していきたい。

### Aitomatic: AIエージェントの特徴



## Market Pulse



| Rank | Model                    | Score | Org.      |
|------|--------------------------|-------|-----------|
| 1    | gpt-5-high               | 1481  | OpenAI    |
| 2    | gemini-2.5-Pro           | 1458  | Google    |
| 2    | o3-2025-04-16            | 1451  | OpenAI    |
| 2    | claude-opus-4-1-20250805 | 1446  | Anthropic |

## GPT-5が、Geminiを抜き去り

ユーザ投票によるLLM性能評価ランキング「LM Arena Leaderboard」では、8月7日に発表されたGPT-5シリーズが首位へ躍進。これまで首位だったgemini-2.5-Proは2位に後退。Anthropicのclaude-opusも首位に食い込み、競争が激化している。【2025.8.11時点】

## Crossroad

## 高校教師 × 生成AI

### 高校教師

高橋 亜由美 氏

世界史担当で、高校3年生の担任をしています。生成AIは、授業のアイデア出しやテスト問



題作成、校務文書の調整等に活用しています。自治体としては、まだ活用に慎重な姿勢が残るものの、今年に入って県のガイドラインが整備される等、時代が確実に動き始めているのを感じます。授業では、AIが作った小さな問いに生徒たちが答え、それを土台にクラス全体で大きな問いを議論する流れを試しています。AIを「問いを磨き、考える力を引き出す伴走者」として活かしたいと考えています。



無限の未来と、幾千のテクノロジーをつなぐ。

CTC Financial Services Group



CTC金融事業グループの最新情報は  
オウンドメディアサイトへ！

<https://financial.ctc-g.co.jp/>



### お問い合わせ



伊藤忠テクノソリューションズ  
金融事業グループ金融NEXT企画部

✉ [fsgnext-biz-dev@ctc-g.co.jp](mailto:fsgnext-biz-dev@ctc-g.co.jp)